

1	組 織 名 称 (略 称)	Object Management Group (OMG) http://www.omg.org						
2	分 類	活動目的	◎	仕様策定	－	実装・検証	オープン ソース	該当あり
			○	試験・認証	○	普及・啓発		
			－	その他()				
	対象技術分野	⑦情報技術(クラウド・プラットフォーム関連)		対象サービス		サービスには該当なし		
	技 術 M A P	活動エリア	③モバイル系、固定系の両方の領域を対象に活動実施		活動領域		⑤APLとMDLの両領域の活動を実施	
3	目 的	The Object Management Group (OMG) はオープンな非営利コンソーシアムでmulti-platform Model Driven Architecture (MDA)を中心として相互運用できる企業コンピュータのインダストリスペックを作成、維持することを目的とする。 ・ネットワーク環境で異なるコンピュータ上に配置されたオブジェクトを統一的に扱える仕組みの標準仕様を作成 ・コンピュータソフトウェアの可搬性、再利用性、操作性の最大活用への貢献 ・CORBA(コモンオブジェクト・リクエスト・ブローカ・アーキテクチャ)の普及 ・2014年からIndustrial IoTの開発、採用、革新を進めるために、IICの管理運営をOMGスタッフがやっている。						
4	組 織 構 成	1名のChairman and CEOと理事会(18社)があり、次の委員会で構成。(文末の図参照) ・Architecture Board ・Platform Technology Committee ・Domain Technology Committee						
5	参 加 資 格 費	法人(団体)、エンドユーザ、州政府、主官庁、大学 会員種別と会費は次の通り。 ・ Contributing Members: \$75,000～\$11,000／年(歳入による) ・ Domain Members: \$37,500～\$5,500／年(歳入による) ・ Platform Members: \$37,500～\$5,500／年(歳入による) ・ Influencing Members: \$21,500～\$3,000／年(歳入による) ・ Government Members: \$12,850／年 ・ Retail Domain Members: \$5,000／年 ・ Trial Members: \$2,150／年 ・ University Member: \$550／年 会員の種別により、役員になれる権利、委員会への参加や投票権(技術委員会レベル、SIGレベル)の違いがある						
6	主 要 メ ン バ (2022年6月現在) (注1)	主要メンバー: (Board of Directors 18社) うち日本企業:0社 Bloomberg LP, Dassault Systemes, Dell Technologies, GfSE e.V., IBM, HDM Analytics, Lockheed Martin, MITRE, Micro Focus, Microsoft, Model Driven Solutions, Object Management Group, Objective Interface Systems, PTC, Real-Time Innovations, Sparx Systems Pty Ltd, TCS, Thematix Partners LLC 会員数:233 うち日系企業数:5 (産総研, Fujitsu, Mitsubishi Electric, Seiko Epson, Toshiba)						
7	他 団 体 ・ 組 織 と の 関 係	リエゾンなど Formal Liaisons: ・CEN/TC 287 ・Cloud Security Alliance (CSA) ・DMTF (Distributed Management Task Force) ・HL7 (Health Level Seven) ・ISO						

		•ITU-T Standardization Sector (A4 and A5 status with ITU-T). •WinnF (Wireless Innovation Forum) •CCSDS (Consultative Committee for Space Data Systems) •Healthcare Services Platform Consortium
8	T T C 活 動 と の 関 連 性 (注2)	TTCの専門委員会活動との関係(☑関係あり、☐関係なし) 関係する場合の専門委員会名(右欄より選択) 理由: クラウドと仮想化を扱っているため、スマートシティ 分野の活動を行っているため。 ⑫Network Vision ④IoT・スマートシティ
9	活 動 状 況	<最近制定した標準> •Business Architecture Core Metamodel BACM 1.0 beta 3月 2022 •BPM+ Knowledge Package Model and Notation BKPMN 1.0 beta 1月 2022 •IDL to C++11 Language Mapping CPP11 1.6 beta 3月 2022 •Decision Model and Notation DMN™ 1.4 beta 3月 2022 •Languages, Countries And Codes LCC 1.2 formal 3月 2022 •Metamodel Extension Facility MEF 1.0 formal 5月 2022 •Risk Analysis and Assessment Modeling Language RAAML 1.0 formal 3月 2022 •Specification Common Elements SCE 1.0 beta 1月 2022 •Shared Data Model and Notation SDMN 1.0 beta 1月 2022 •Tactical Decision Aids Interface TDAI 1.0 beta 1月 2022 •United Architecture Framework UAF 1.2 beta 3月 2022 <ニュースリリースより> •持続可能な開発目標に取り組むために協力する技術イノベーターで構成される新しいコンソーシアムである責任あるコンピューティング(RC)™を発表 -May 20, 2022 •拡張現実(エンタープライズアライアンス)(AREA)と提携したことを発表 -October 19, 2021 •リスク分析および評価モデリング言語(RAAML)仕様のベータバージョン1.0を発表 -September 15, 2021 •ナレッジプラットフォーム仕様のアプリケーションプログラミングインターフェイスのベータバージョン1.0を発表 -September 14, 2021 •一般的なシステムモデリング認定試験がピアソンOnVUEでオンライン(仮想)で利用可能になったことを発表 -August 4, 2021 •デジタルツインコンソーシアムとOMGは、2021年7月26日から30日まで開催される第8回IEEE情報技術のための宇宙ミッションチャレンジに関する国際会議(SMC-IT 2021)でミニワークショップを開催すると発表 -July 15, 2021 •CORBA仕様バージョン1.0ベータ版の残りの部分を公開したと発表。新しい仕様では、CORBA (共通オブジェクト要求ブローカー・アーキテクチャー) オブジェクトをREST (REpresentational State Transfer) アーキテクチャー・サービスとして公開できる -June 29, 2021 •ユニファイドポイントオブサービス(UnifiedPOS)仕様のV1.16を発表。強化された仕様は、ビデオキャプチャ、ライト、音声認識、音声合成、電源、グラフィックディスプレイなどの機能を備えた小売通信サービスデバイス(サービスロボット)をサポートしている。 -June 10, 2021
10	設 立 時 期	1989年4月
11	本 部 所 在 地	9C Medway Road, PMB 274 Milford, MA 01757U.S.A. Tel: +1-781-444 0404 Fax: +1-781-444-0320 E-mail: info@omg.org
12	関 連 標 準 化 技 術	ISO標準となったOMG仕様 (ISO番号) •Automated Function Points (AFP™)1.0 (19515) •Business Process Model And Notation BPMN™ 2.0.1 (19510) •Common Object Request Broker Architecture CORBA® 3.1.1 (19500)

		• Knowledge Discovery Metamodel KDM 1.3 (19506) • Meta Object Facility MOF™ 1.4 (19502) • Meta Object Facility MOF™ 2.4.2 (19508) • Object Constraint Language OCL™ 2.3.1 (19507) • OMG System Modeling Language SysML® 1.4 (19514) • Unified Modeling Language UML® 1.4 (19501) • Unified Modeling Language UML® 2.4.1 (19505) • Unified Profile for DoDAF and MODAF (UPDM™) (19513) • XML Metadata Interchange XMI® 2.0 (19503) • XML Metadata Interchange XMI® 2.4.2 (19509)		
13	権 利 関 係 (I P R P o l i c y , B y l a w s など)	IPR Policy https://www.omg.org/legal/index.htm#ipr Bylaws https://www.omg.org/cgi-bin/doc.cgi?bylaws		
14	備 考 (普 及 状 況 など)	OMG の 主 要 な 標 準 規 格 で あ る CORBA (Common Object Request Broker Architecture)は、分散システム環境において異なるプラットフォームやプログラム言語であってもオブジェクト間のメッセージ交換を可能にする分散ミドルウェア基盤。フリーソフト、商品等実装多数あり		
15	更 新 履 歴	2003年	調査開始	
		2022年6月22日	更新	斉藤(OKI)

(2020年度版)

(注1) 日系企業とは親会社が日本企業かどうかで判断する。

(注2) 「TTC活動との関連性」とはTTCの専門委員会の活動と関連しているかを示す記載とし、理由には具体的な専門委員会名と関連している部分等を記載する。

